

(シラバスNo.10)

科目名	教育方法学特論	科目コード	(2021年カリキュラム) / (2024年カリキュラム) 21P-S2/24P-B2	
		科目群名	(2021年カリキュラム) 基幹科目	
			(2024年カリキュラム) 専門科目 (B群)	
	Advanced Seminar on Educational Methods	必修/選択	(2021年カリキュラム) / (2024年カリキュラム) 選択/選択	
担当教員	仲 久徳	教職	小・中・高	
		単位数	2	

【授業概要】

本科目は、授業を中心とした教育実践研究の土台となる教育方法学、学習、教育評価及び教材・授業設計の基礎的事項について学習科学をベースとした最近の動向を踏まえて学びなおすこと、教材・授業設計の演習を通して教材・授業設計に必要な判断力、論理的な思考力、応用力の習得を目的とする。

授業は、担当教員の講義、受講者による発表、受講者及び担当教員とのディスカッションを通して進めていく。

なお、本科目は、教育方法学及び教材・授業設計について、初学者を対象として授業計画を立てているため、教員など授業経験者が受講する場合、受講者数が多数の場合、【授業計画】の内容や順番が変更になる場合がある。詳細は、第1回授業時に説明する。

【授業の到達目標】

教育方法学、学習、教育評価及び教材・授業設計の基礎的事項について学習科学をベースとした最近の動向を理解し、各自が設定したテーマに沿った教材・授業設計ができる。

【授業の形態】

メディア授業の実施【あり】

<授業の特徴> (毎回実施に◎、適宜実施に○を付けてください)

形態	実施	具体的に実施すること
講義	◎	基礎的事項についての講義
グループワーク・質疑	○	(受講者が多数の場合に実施)
演習	◎	教材・授業設計についての演習
プレゼンテーション	◎	事前課題についての発表・討議
制作		
その他 ()		

【授業計画】

回	内 容
1	オリエンテーション
2	教育方法学、学習、教材・授業設計に関する基礎的事項 (講義)
3	教育評価に関する基礎的事項 (講義)
4	「単元構想」 (発表・討議)
5	目標及び評価規準・基準の設定 (講義)
6	「目標及び評価規準・基準の設定」 (発表・討議)
7	授業運営 (講義)
8	「1時間の授業構想」 (発表・討議)
9	測定・評価ツール開発 (講義)
10	「測定・評価ツール開発」 (発表・討議)
11	教材研究・教材開発 (講義)
12	「1時間の授業の指導案」 (発表・討議) (目標、評価を中心に)

13	単元指導計画（講義）
14	「単元指導計画」（発表・討議）
15	授業研究と授業改善（講義）、まとめ
試験	
【履修上にあたっての準備】 ・毎回、課題を提示するので予習・復習の時間をしっかり確保しておく。（参考までに、法令では、2単位取得のためには60時間の予習・復習が必要と定められている。）	
【授業外学修（予習・復習）】 ・予習：毎回指示する事前課題に取り組む。 ・復習：授業時に指摘されたことに対して対応する。	
【評価方法】 ・毎回の課題提出または発表（45%）・科目修得試験（55%）	
【教科書】 必要に応じて資料を配布する。	
【参考図書】 大島純・千代西尾祐司編(2019)『主体的・対話的で深い学びに導く学習科学ハンドブック』北大路書房（ISBN：978-4762830808） 今井むつみ（2024）『学力喪失—認知科学による回復への道筋』岩波新書（ISBN：978-4004320340） 木村優・岸野麻衣編(2019)『授業研究 実践を変え、理論を革新する』新曜社（ISBN：978-4788516311） 稲垣忠編著(2022)『教育の方法と技術 Ver.2 IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び』北大路書房（ISBN：9784762832123） 学習指導要領（小学校・中学校・高等学校）及び、総則編：文部科学省	